

随想

第184回

上げのような雰囲気は何回も味わいました。

そればかりか、市内各地でゴルフ場誘致または、進出の話がいくつか持ち上がってまいりました。

そこで想いましたのは、ゴルフ場の場合、1000から150haの面積を使用した18ホールの標準的なコースで、年間数億円から10億円の売り上げであると考えました。

し、市議会でも明言いたしました。

そうした経過の中で、3カ所の企業誘致のための工業団地を造成し、十数社の進出が実現して、今では、本市の全製造品出荷額の4割、約500億円の出荷実績を挙げておられ、陶磁器産業の落ち込みを補う形で、産業構造の複合化が進みつつあります。

おかげさまで、多くのゴルフ

て完成し、当面20年間の定期借地権に基づき「土岐プレミアム・アウトレット」が華々しくオープンし、さらには、新規企業の進出と、シネコンや温浴施設などのアミューズメントセンターの立地に積極的に取り組んでおります。

今一つは、泉町の「アクアシルヴァ」(ラテン語で水と森)と命名された工業団地の開発でありまして、これは

「産業構造の複合化を想う」
——地域経済の活性化を求めて——



土岐市長

塚本保夫

生産性の高い企業の場合、10haあれば数十億円から100億円単位の売り上げは、期待できると考えておりましたことと、当時「東海環状都市帯構想」が取りざたされておりましたので、土地利用の基本原理として「ゴルフ場でもという場所ではゴルフ場は駄目、ゴルフ場しかという場所では、地域振興の観点から検討する」という方針を打ち出した。

フ場計画は取りやめとなり、貴重な緑が保全されることとなりました。

また、市内2カ所のゴルフ場計画の要望の強かった場所、新しい土岐の時代の重要拠点として最近脚光を浴びつつあります。

一つは、土岐津町の「土岐プラズマ・リサーチパーク」でありまして、東濃研究学園都市構想のメインエリアとし

「アクアガーデンシティ」として高級住宅地を目標に造成された場所の工業団地への転用であります。これが順調に進みますと、中部圏でも注目される場所となり、著名な有力大企業進出も大いに期待されるところであります。

東海環状自動車道の開通により、中央自動車道との結節点にあります本市の発展可能性(ポテンシャル)は、確実

に向上してまいります。

人口減少時代を迎え、若者の定着と市外からの受け入れをどう進めるかが地域活性化の鍵であります。

永い歴史を誇る伝統産業を大切にしながら、若者に魅力と希望の持てる所得水準を確保できる生活環境が何よりも大切であります。

上下水道の整備、保健・医療・福祉の充実、教育・文化・芸術の諸施設の整備と有機的な連携、消防・防災体制の整備と安全・安心の確保、産業振興各施設の整備と産学連携の推進、環境・衛生の充実などなど、おおむね順調に進んでまいりましたが、中心市街地の再生が残された大きな課題であります。

土岐の新時代に向け、若い世代が清新の気風を持って、志を高く掲げ、未来を拓く原動力になっていただくことを願ってやみません。

ところが、当時は、ゴルフ場ブームの勃興期でありまして、当該地にゴルフ場を誘致すべきとの猛烈な働き掛けがあり、その賛同者が大きな集会を開催され、私も呼び出されて、つるし